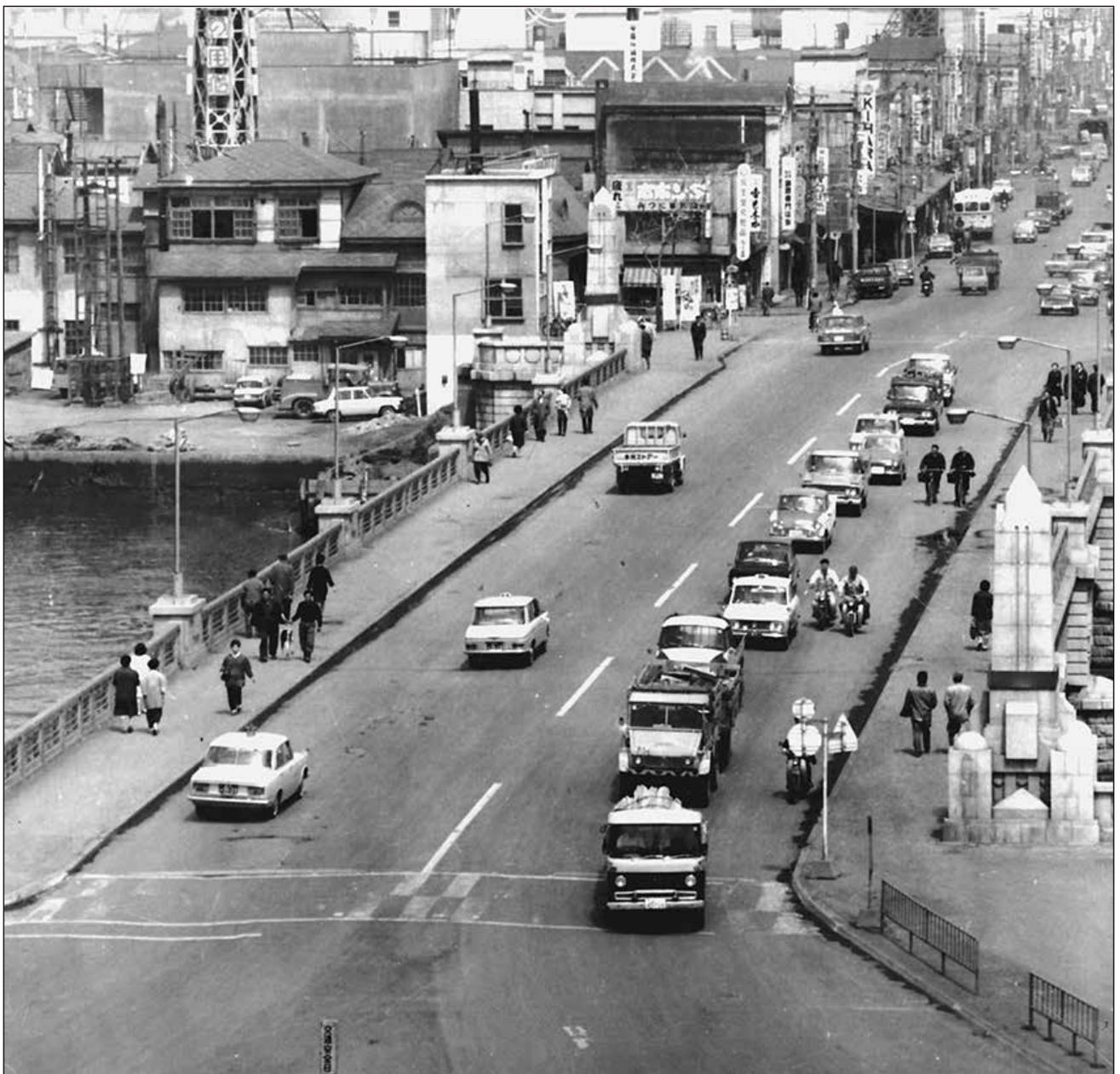


Science Report of Kushiro City Museum

釧路市立博物館報

NO.423



2019.3

写真展・あの頃の釧路

昭和30年頃の車が列をなす幣舞橋の写真を見ると、南橋詰と北橋詰に4本のオベリスク風の親柱が見え、北大通り交番、消防本部と望楼が見え、其の奥に北大通り商店街が見えます。写真は、あの頃買い物をした商店街、霧に濡れて歩いた幣舞橋、感動した花火大会等多くの記憶を私に甦らせてくれ、北大通りの車の列がこんなにも長いと驚きの新しい発見も伝えてくれます。

写真の収集の始まりは、平成13年度釧路市民大学「盛り場の栄枯盛衰」の受講者で、明治23年発行の「北海立志図録」を基に大火で消えた真砂町の復元図の作成参加をした釧路の歴史に魅力を感じた仲間と「真砂町倶楽部」を発足させた事です。「北海立志図録」は、銅版画で創生期の釧路の中心市街地の商店、料亭、民家を詳細に伝える資料で私達を魅了しました。その後、佐々木米太郎が建てた現存する釧路市内最古の土蔵を再生する「洲崎町まつかし館蔵を再生させる会」に参加し、仲間と釧路の歴史を伝える展示活動を行います。活動の中で多くの市民情報により収集された写真が、写真展「あの頃の釧路」に展示されている写真です。写真展は、多くの人々に一枚の写真があ



昭和38年 北大通4丁目

あの頃の楽しさや苦しさ等多くの思い出を伝えませんが、写真を見ながら懐かしさが会話を弾ませ多くの記憶を呼び戻してくれます。

街並と商店街、漁船と幣舞橋、船と港、鉄道等釧路の光景は日々変化しますが、写真はその頃の様々な生活情報を伝えています。此の度の展示資料は、あの頃の釧路市民の生活の記憶を次代へ伝えたいと思う人達の思いが込められています。

「写真展・あの頃の釧路」は、「伝えたい」思いを実現した企画です。今後の真砂町倶楽部の活動の励みに致します。

真砂町倶楽部 代表 木村浩章

3月号目次

浜中町、白糠町収蔵の考古資料について……………	石川 朗	3
福音ルーテル釧路教会の終焉と釧路市内のキリスト教会……………	持田 誠・岡田 薫	5
釧路・根室の簡易軌道「鉄道友の会島秀雄記念優秀著作賞」を受賞……………	石川 孝織	10
チャランケチャシ……………	土屋 慶丞・澤田 恭平	11
博物館ニュース……………		12

〈表紙写真〉 私の博物館「あの頃の釧路」で展示している1枚。場所は釧路のまちのシンボル幣舞橋^{ぬきまいばし}で、東京五輪が開催された翌年の1964年(昭和39年)の撮影です。商店の看板が立ち並び、道東の拠点都市としてますますの発展が見込まれた、そのような雰囲気伝わってきます。(戸田恭司)

釧路市立博物館館報 No.423 2019年3月号 2019年(平成31年)3月31日発行

発行 釧路市立博物館 〒085-0822 釧路市春湖台1-7

☎ 0154-41-5809(博物館)・43-0739(埋蔵文化財調査センター)/ FAX 0154-42-6000

釧路市立博物館Web <http://www.city.kushiro.lg.jp/museum/>

museum@city.kushiro.lg.jp(博物館) maibun@city.kushiro.lg.jp(埋蔵文化財調査センター)

発行責任者 佐藤 志敦 編集 貞國 利夫・石川 孝織 印刷 (株)藤プリント